

# 消防団 ネットin川口

令和3年3月25日

第63号

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部

消防団長 吉田 幸市

発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局

電話 048-261-8102

## 消防団長からのお言葉

川口市消防団長 吉田 幸市

今年度も桜の開花が待ち遠しい時期となりました。消防団員をはじめご家族の皆様方には、平素から災害活動や消防団運営にご尽力いただき心から感謝申し上げます。

先日の「令和2年度川口市消防団員表彰式」には奥ノ木信夫市長、柳田市議会議長のご出席を賜り、コロナ禍ではありましたが無事に開催することができました。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため消防団特別点検が中止となり、例年同時に実施していた表彰式を開催したものです。当日は長年にわたる消防団活動に献身的にご尽力された功績に対し、206名の多くの方に市長表彰等の表彰をさせていただきました。受賞された消防団員の皆様に心から敬意を表しますと共に、改めてお祝いと感謝を申し上げます。



私たち消防団は地域の安全・安心のために、どんな状況でも全力で活動しなくてはなりません。団員の皆様におきましては健康に注意し、万が一の場合には全消防団員が一丸となり、地域住民の暮らしを守るためにご尽力いただきますよう宜しくお願いします。

そしてこの度、令和3年3月31日をもって消防団の退団となります。長きにわたり団員の皆様、消防職員の皆様には大変お世話になりました。

48年間を振り返りますと、消防大学入学、全国女性消防団員活性化大会参加、ステアレース川口と多くの思い出があります。一番の思い出は埼玉県消防操法大会に2回出場したことです。最初は7人操法、その後5人操法に出場しました。訓練の3ヵ月間は週3日の訓練で本当に厳しかったですが、今となりましては良い思い出となりました。

また、川口市消防団との合併もありました。両市の団本部、事務局の会議で説明を受け、組織の大きさや年間行事の多さに驚きました。金子前団長をはじめ、副団長の皆様の気遣いもあり、スムーズに川口消防団の一員になれたと思います。そして初めて川口市消防団として平成23年の特別点検に参加し、規模の大きさに感激をいたしました。私自身、消防団長になれるとは思っていませんでしたが、金子前団長より推薦をいただき3年間団長職を務めました。しかし昨年の新型コロナの影響で年間行事が中止となり、何もできなかったことが悔やまれ残念な思いが残ります。

最後に、今後も伝統ある川口市消防団の更なる発展と、団員の皆様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げます。退団の挨拶といたします。48年間の長きにわたるご指導とご鞭撻いただき感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

## 退団支団長挨拶

退団者を代表して支団長に挨拶していただきます。

### 第5支団長 小泉 兼法



思えば45年前、その古典的な名前から父と勘違いされて入団したのは丁度、我が第5分団がポンプ車操法大会に出場する前年度の練習が始まる頃でした。

今のようにパソコンで情報が入る訳ではありませんでしたので、同期入団の木内元副団長と全く見た事もない操法を、そして分署の指導で夢中に行ったことを、つい最近のように覚えています。それが次の出場には支団長として第5支団を後押しすることになるとは夢にも思わぬことでした。

もとより浅学非才な私が東日本大震災や数回の台風に遭っても、大過なく任務を全う出来たのも上谷沼貯水池、藤右衛門川等々のインフラ整備に、地元町会各位のご協力ご声援、そして団員各位のご協力、諸先輩方や団係の方々からのご助言等々の賜物と深く感謝いたしております。

色々な方々に支えられて行動するという本当に貴重な時間が、諸先輩のように定年退職まで続くと思っていなかった。しかし当時全く自覚症状のない、ほぼ知識もないリンパ腫という病気が偶然見つかри、1年以上の入退院が必要な治療ということで、今回退団させていただくことに致しました。

川口市は全体でみても本当に穏やかな都市ではありますが、私の体のように何が起きるか分からない気候になってきているようです。団員の皆様も充分健康に留意され、来るときに備えて頂ければ一市民として頼もしい限りであります。

最後になりましたが、川口市消防団の皆様、本当にありがとうございました。

### 第8支団長 会田 正男



安行桜が咲き始めました。

この度、消防団員として定年退職をむかえます。44年間、第8支団・分署職員・団本部・安行地区の皆様にご協力をいただきまして、活動を続けられましたこと、感謝に堪えません。

今後とも地域のために協力をさせていただきたいと思っております。

川口市消防団の益々のご活躍をお祈りいたします。

### 第9支団長 石塚 登喜雄



消防団員となって47年、無事に勤められたことは、皆様方や家族の協力の賜物と心から感謝申し上げる次第です。今や生活の一部となっておりますので、団員としての仕事が全く無くなるのはどこか穴が空いたようで寂しささえ感じることでしょう。あとは現役の皆様にご役割を託して私は良き思い出として、生涯大切に生きていこうと思っております。

最後に支団長としての役割を果たせたことを誇りに思います。新型コロナウイルスに負けないように体に気を付けて頑張りましょう。

## おかめ市

### 第2支団第1分団 班長 久米本 雅章

12月19日(土)、川口駅西口にある飯塚氷川神社にて『熊手市』が開催されました。例年は神社周辺道路が通行止めになり約100店の露店が並びますが、今年は感染予防対策として神社内のみで開催。入り口を一か所に限定し検温やアルコール消毒を徹底されていました。

第2支団では神社から徒歩5分ほどの場所にある第2分団の車庫を詰め所とし、交代で会場内の事故防止に努めました。南消防署所長や消防団長も激励に来られ、団員たちと一緒に巡回いたしました。コロナ禍で中止と思っていた方が多かったのか場内は閑散としていました。

飯塚氷川神社の『熊手市』は川口神社の『おかめ市』に倣って昭和34年(1959年)から始まったものです。一日も早くこの状況が落ち着き、年末の風物詩である『熊手市』が賑わいを取り戻すことを願います。



### 「鳩ヶ谷氷川神社おかめ市特別警戒」

### 第10支団第1分団 班長 花岡 巖

去る令和2年12月20日、鳩ヶ谷氷川神社おかめ市特別警戒が鳩ヶ谷地区を受け持つ第10支団と第11支団によって行われました。

感染症の影響によりおかめ市開催に伴う御成街道の歩行者天国と露天商の出店が中止になり、神社境内で熊手を売るだけでしたが、消防団による警戒は例年通り実施。当日の正午、鳩ヶ谷分署での警戒本部開所式において分署長から訓示を受けた後、第10支団は各分団車庫ごとに、第11支団は鳩ヶ谷分署を詰め所として待機と見回り警戒を行いました。

鳩ヶ谷氷川神社のおかめ市は大正時代から続く年末の風物詩。例年、沢山の人が出がある中で警察・関係団体と協力して行う消防団の見回り警戒は防犯・防災の一翼を担っていました。また、消防団員にとっても歴史ある鳩ヶ谷のおかめ市を警戒する事は誇りでもありました。しかし、今回は人出も無く日常と変わらない静かなおかめ市です。どのように警戒するか戸惑いもありましたが、支団長の判断・指示に従い、各分団長が地域の実情に合わせて警戒活動を行い、詰め所では密にならないよう配慮して団員を配置。これらは有事を想定した訓練的な要素もあり、大きな意義があったと思います。

第10支団の村山支団長、第11支団の勅使河原支団長それぞれから「コロナ禍と年末の忙しい最中でしたが、皆、臨機応変に対応してくれました」と団員を労う趣旨のコメントがありました。



## 令和2年度 川口市消防団員表彰式



### 第3支団第2分団 班長 松本 聖和

去る2月21日(日)川口リリアにて、川口市消防団員表彰式が開催され、私は二等功労章と15年勤続章をいただきました。

川口市に住み始めて25年、そして当時、高い志も持たずに入った消防団も気付けば15年間在籍し、消防活動や訓練に勤しんでおります。

不思議なもので消防団に入団し、消火活動や町会活動を行ううちに仲間も増えてきました。自分の所属地域を守りたいという気持ちも生まれ、その気持ちがどんどん大きくなって

います。

最後に、私の人生よりも長い時間を旧鳩ヶ谷市や川口市のためにご尽力された吉田消防団長、そして今回退団される方々、本当にお疲れ様でした。先輩方に負けないよう、我々も消防団活動に邁進してまいります。

### 「消防勤続三十五年受賞によせて」



### 第4支団長 吉原 一夫

この度、川口市消防団員表彰伝達式において、市長勤続三十五年の表彰をいただきました。コロナウイルス感染症による緊急事態の中にも関わらず、表彰式の準備開催をして頂いた消防各関係者の皆様に感謝申し上げます。

今日まで消防団活動を続けられてこられたのも、地元の仲間と共に地域防災に参加してきたことや家族の協力のお陰で三十五年もの長い間、続けること

ができたのだと思います。

改めて多くの皆様に支えられて消防団活動を続けてこられたことに感謝申し上げ、残りの消防団活動を邁進していきたいと思っております。

### 「家族顕彰受賞」

### 第4支団第1分団 部長 松本 晃彦

平成12年(2000年の方が分かりやすい!)4月1日に入団して早20年。家族顕彰を受賞しましたので夫婦で出席しました。今回はコロナ禍で85名が参加した川口市消防団員表彰式の場に於いて9家族が表彰されました。



### 第5支団第1分団 団員 村田 彰一

令和3年2月21日(日)に令和2年度川口市消防団員表彰式が川口リリアにて行われました。表彰は例年、消防団員特別点検の時に行われるのですが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止。今回は緊急事態宣言が発令中ではありましたが表彰式のみ実施。奥ノ木市長、柳田市議会議長からのお礼のお言葉をいただきました。

私は第5支団代表で表彰式に参加。川口支部2等功労章を受賞。その他、多くの方々が表彰されました。これ

からも多くの方々に消防団として活躍していただき、みんなが受賞できればと思います。今年は川口市消防局、消防団のみなさんのご協力により、例年に比べて火災件数が少なかったとのこと。

これからも予防広報や防災訓練を通じて、市民の方々に防災意識を高めてもらい、災害の少ない街づくりを目指していきたいと思っています。



## 新入団員紹介

### 第3支団第2分団 団員 高橋 義和(たかはし よしかず)

令和2年4月から第3支団第2分団に入団しました高橋です。仕事は陸用発電プラント設備の工事原価積算・管理・工事見積発注業務、現地工事工程管理業務を行っています。消防団に入るきっかけとなったのは、私が住んでいる地域の町会活動の中です。防災訓練や救急救命訓練、また、地域小学校でのイベントの際に消防団の方々が住民に対して地域防災についての認識をしてもらうように指導されている姿を見て、消防団というものに非常に興味をもったからです。

まだまだ未熟者であり、消防団に入団する年齢としては遅いかもしれませんが、地域防災に少しでも力になれるよう頑張っていきたいと考えております。



### 第4支団第2分団 団員 佐藤 卓哉(さとう たくや)

令和2年の10月に入団することが決まりました。消防の知識やスキルを学び、川口市に貢献していきたいと思っています。

学生時代では、部活動を通じテニスを行い、今でも日々トレーニングを積み重ねています。

若さと体力を持ち前に取り組んでいきますので、宜しくお願い致します。



### 第9支団第2分団 団員 大谷 準己(おおや じゅんき)

生まれは川口市ですが、生まれてからすぐに行田市で7年間生活をしておりました。小学校入学のタイミングで川口にまた戻ってきまして、25年ほど川口に住んでおります。最近では体もあまり動かしていなく、少量の運動等で筋肉痛になったりすることもあるので、ジョギングなど日常から行っていこうと考えております。



入団してまだ色々と分からないことも多く、ご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、一日も早く一戦力として努めていけるよう精進し、地域に貢献できればと考えております。宜しくお願ひ致します。

### 第9支団第2分団 団員 山崎 貴志(やまざき たかし)

今年度4月より入団致しました。皆様よろしくお願ひいたします。

私は地元戸塚で生まれ育ち、そしてこの地で仕事をして家庭をもち、暮らしていく中で何か微力でも役に立てることはないかと考えておりました。ちょうどその頃、地元の先輩方からお誘ひいただき戸塚の消防活動を知りました。私は健康ではありますが体が小柄なので体力が必要な消防活動が出来るのかと不安があったので、少し躊躇してしまいました。でも先輩方の親切で丁寧なご説明をいただき、不安が消え入団を決めました。まだまだ分からないことが沢山ありご迷惑をお掛け致しますが少しずつ勉強していきますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



### 令和2年度定年退職者

| 支団    | 分団   | 階級  | 氏名     |
|-------|------|-----|--------|
| 団本部   |      | 団長  | 吉田 幸市  |
| 第8支団  |      | 支団長 | 会田 正男  |
| 第9支団  |      | 支団長 | 石塚 登喜雄 |
| 第9支団  | 第3分団 | 分団長 | 早船 明   |
| 第11支団 | 第3分団 | 分団長 | 加藤 和寛  |
| 第10支団 | 第2分団 | 団員  | 石塚 和男  |



### お詫びと訂正

団ネット62号にて、第10支団の村山支団長の氏名に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

(誤) 村山 明透 ⇒ (正) 村山 晃透



### 編集後記



2回目の緊急事態宣言下で震災訓練や研修等中止となってしまいましたが、消防団員表彰式は規模を縮小して開催された唯一の行事でした。広報委員会といたしましても初めてリモート会議の形を取り内容を進めました。今年度最後の号となりましたが、新年度も各支団の活動を周知していけたらと思います。ご協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。

広報委員長 小川 由起